

快適な空間づくりのために

近年、省エネ住宅の普及とともに、空間の主役となる薪ストーブの採用がますます増えています。

特に、蓄熱性や熱伝導率に優れ、デザイン性も高いタイル仕上げは、これらの暖房設備との相性が非常に良い組み合わせです。

その性能を最大限に引き出し、長期にわたり安心してお使いいただくために、薪ストーブから伝わる熱の影響を考慮した、専門的な設計・施工が不可欠です。

この資料では、薪ストーブ周りにおけるタイル張り仕上げの一例と、美しく長持ちさせるためのポイントをご案内いたします。

適用タイル(JIS A 5209)

タイルは熱に素早く反応し、少ないエネルギーで暖まる性質を持っています。さらに、その高い蓄熱性で、一度蓄えた熱をゆっくりと放出。床暖房や薪ストーブを消した後も、穏やかな暖かさが持続し、快適な室温を長く保ちます。

- B 1 (磁器質施釉)
- 熱伝導率 1.3W/m・K
- 比熱 880J/kg・K

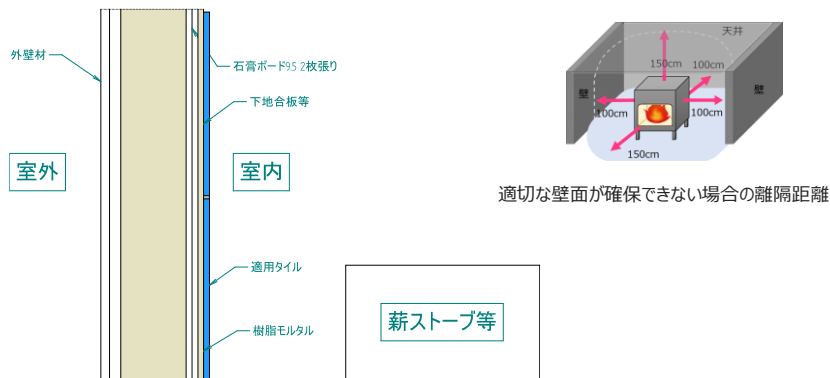
引用資料

- JASS19 セラミックタイル工事
- 建築基準関係法令

用途 (実績)

- 木造軸組構造への内壁タイル張り

薪ストーブ設備



薪ストーブ設備の内壁納まり参考の一例を示します。

- ・タイル張付材は不燃性の樹脂モルタルを使用してください。タイル張りに先立ち、接着性を確認してください。表面温度 60℃ 以下の場合、有機系接着剤を使用できます。
- ・適切な壁面構成とすることができない場合は、右上図の離隔距離にて設計してください。
- ・内装制限に適合する設計としてください。吹き抜けなど高所タイル張りなど、張付材の性能を超える使用はできません。

薪ストーブ (輻射式)

本体自体が熱を吸収し、ストーブの表面から出る輻射熱 (遠赤外線) によって部屋全体を温める最も伝統的なタイプです。本体の近くは非常に熱くなるため、安全上の配慮が必要です。

薪ストーブ (対流式)

ストーブ本体の周りに「外殻 (ジャケット)」をもうけ、その隙間を暖められた空気が上昇することで温風 (対流) を生み出し、部屋全体を循環させるタイプです。

本体の表面温度が輻射式ほど高くないため、壁からの距離を比較的近くに設置できるメリットがあります。



- ※ 本書は設計施工の参考資料となります。不具合を保証するものではありません。
- ※ 建築基準法および関係法令に適合する設計としてください。不明な点は、消防庁などの当局にご確認ください。